

第208回 IDT本輪読シリーズ 第9部 第38章

討論:異なるレベルの教育的ガイダンスの利点

定義

理論

評価

HPI

場面

世界

職業

最新

課題

• 完全指導教育 リチャードクラーク

- 完全指導型教育が最も有効で効率のいい方法であるとの結論
- 前提知識が高い学習者は完全指導教育からの恩恵は少ない
- インストラクショナルデザイナーは学習ガイダンスについて精通してなければならない
- フィードバックを受け取る機会をすべての学習者に与えなければならない
- ガイダンスは徐々に減らしていくべきだが、学習者が必要なときに戻せるようにしなければならない

VS

• 最小限のガイダンスを含む設計モデル マイケルハナフィン

- 設計手法と方略はあらゆる状況で使える一般的なものではない
- どんな設計方法も、すべての学習目的の多様性と複雑さに対応できるほど十分確固たるものではない
- 多くの種類の学習目的を支援しなければならない
- 学習成果が特定できないところでは、学習者中心設計が個人特有の学習目的の習得を補助する

完全指導型教育(p645)

- 完全指導型教育
 - 直接教授法
 - 明示的教授法
 - ガイド付き体験学習

学習者に学ぶことが求められている概念や手順について完全に説明する情報と、人間の認知構造に合致した学習方略への支援を提供する

最小限のガイダンスを含む設計モデル(p643)

- 最小限のガイダンスを含む設計モデル
 - 構成主義
 - シリアスゲーム
 - 実践共同体
 - 発見学習
 - 問題中心型学習
 - 探求型学習
 - 協調学習
 - 足場掛け
 - 没入型訓練